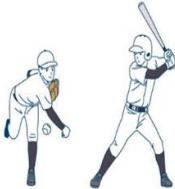


開進三中だより

< 第8号 >

—◆たくましい人◆考える人◆心豊かな人◆助け合う人— 練馬区立開進第三中学校



二刀流と文武両道

校長 堀 健一

投手と打者の二刀流で活躍している大谷翔平選手が日本から移籍する際、名門のヤンkeesやレッドソックスの誘いを断ってまでエンゼルスを選んだ理由は、チームの二刀流への考え方や育成方針を最優先にしたからだと言われています。練習時間は限られていますので、才能だけでなく、きっとすごい集中力で、投打の練習に取り組んだことだと思います。投手としての3試合連続ホームランは1930年の「野球の神様」ベーブルース以来88年ぶりの快挙でした。そして、2021年の最優秀選手(MVP)に史上19人目の満票で選出されています(日本人選手のMVPは2001年のイチロー選手に続いて2度目)。快進撃はさらに続き、2022年8月にはベーブルース以来104年ぶりとなる2桁勝利・2桁本塁打の偉業を達成しました。2023年12月にロサンゼルス・ジャイアンツと当時スポーツ史上最高額となる10年7億ドル(約1015億円)の契約を結びます。2024年は右肘の手術から復帰し指名打者に専念。2025年6月に投手復帰を果たし、優勝決定シリーズでは投打で活躍し、初のリーグチャンピオンシップシリーズMVPに輝きました。二刀流復活でチームのワールドシリーズ連覇にも貢献し、MVP(4度目)を受賞しています。

さて、生徒の皆さんにはもっと身近な言葉として「文武両道」について話します。「文武両道とは何ですか」と聞けば、殆どの生徒が「勉強と部活動の両立」と答えます。文部両道とでも表現しましょうか。果たして部活動や学校外のスポーツ活動と学業の両立は可能なのでしょうか。スポーツの練習に明け暮れ、全然勉強しない人もいるのではないでしょか。それは、自ら自分の可能性を狭(せば)めていることになります。

文部科学省の全国学力・学習調査の結果と全国体力・運動能力調査の結果を重ねると、運動ができる子どもは勉強もできるという結果が出ています。学業成績が高いほどスポーツに取り組んでいる子どもの割合が高いという別の調査結果もあります。特に中学生では、運動に懸命に取り組む子どもほど勉強もよくできるということでした。これは日頃私が学校で感じていたことを裏付けています。部活動も勉強も、必要なのは集中力です。練習試合に向かう途中でも寸暇を惜しんで勉強できることが、試合中の集中力にもつながりますし、少ない時間を有効に使うマネジメント能力も身に付けられます。勉強や練習をダラダラ3時間するより、集中して1時間ずつ行う方が効果的です。練習で集中力を維持できれば、勉強でも同じように集中力を保つことができるはずです。3年生で部活動が一段落した後(私は敢えて引退という言葉は使いません)、すばらしい集中力で驚くような成績を上げる生徒がたくさんいます。それこそが、「文武両道」のもつ本来の意味が「スポーツでも勉強でも、培われる人間としての力は同じだ」ということを証明してくれています。皆さんも、ぜひ「二刀流」「文武両道」を目指してください。やればできる!

【税の表彰】 本校は2人の生徒が受賞しました。

①「税の標語」

東京都練馬都税事務所長賞 3年生
「支えてる 社会の基盤を 税金が」
(応募数 6,734 から入選 23 作品)

②「税についての作文」

国税長官賞 3年生
「二つの米騒動」
(応募数 2,252 から入選 22 編)



【教育相談と3年生面接練習】

副校長 志村 修

12月1日（月）から12月8日（月）まで、全学年教育相談が行われました。1、2年生は、学校における学習状況や生活の様子等をお伝えし、生徒・保護者様からの相談を受ける場となっています。3年生は進路について具体的に相談し、受験校の確認とその出願手続きについて確認する場となります。入学試験は1月中旬より、私立高校の推薦受験、都立高校の推薦受験が行われ、2月に入ると私立高校の一般受験・都立高校の一般受験と続いていきます。試験日はまだ先ですが、試験を受けるための手続きは12月より本格化します。昨今は「Web出願」が一般的で、各ご家庭の端末を用いて、オンライン上での出願となります。保護者の世代の多くは「願書を受験校に持参する」形でした。よって、受験校に出向かなくて良いので楽になったようにも思うのですが、逆に入力から送信まですべての作業を、マニュアルに則り、自分で確実にやりきらねばならないので、とても神経を使います。「この作業で大丈夫だろうか。」と不安や心配が常につきまといいます。送信が無事完了し、受験票がきちんと印刷されて、はじめてホッとできます。

これ以外にも、3年生にとっては気が抜けない場面の連続になると思いますが、これも成長のための試練と思ってください。

また、教育相談の裏で、推薦受験予定者の面接練習（希望者）を行いました。面接ガイダンス等での基本的な質問の受け答えを考えていたにもかかわらず、的確に対応できなかったり、少し異なった聞き方をされたりすると、想定していたことと違うのでドキドキ感が一気に増幅し、しどろもどろの返答になったりする様子がありました。本番前に、そのような姿を自分自身が確認でき、良い経験となったことと思います。

そして、生徒の皆さんの方からは、「質問に対してうまく答えられない。どうすればいいですか。」と質問されることもありました。予想される質問の返答を考えておいたり、自分の調べたことや伝えたい内容を整理しておいたりすることは大事です。しかし相手が話す内容を即座に理解し、その返答を考え言葉にできるには、経験が必要です。その経験は、どのようにして積むのか……。

それは日々の授業や活動における先生の問いかけや、生徒同士の活動で出てくる問いかけに、真摯に向き合い、返答することの積み重ねではないでしょうか。中学生には、それが最短かつ最善の取組だと思います。いかがでしょうか。

そう考えると、3年生はまだ1ヶ月、1・2年生は経験を積める時間がかなりありますね。